

## 平成24年度 第1回入船地区学校統合懇談会議事要旨

1 **開催日時** 平成24年7月13日（金） 午前10時00分～午後12時00分

2 **開催場所** 浦安市文化会館第一会議室

### 3 **出席者**

（委員）

小松学校統合アドバイザー、緒方会長、鞍山副会長、新田副会長、吉岡委員、師岡委員  
設楽委員、中村委員、坂上委員、米山委員

長野教育総務部長、大野教育総務部参事、角田教育総務部次長、山高教育総務部次長  
（事務局）

佐藤学務課長、桂林学務課長補佐、鈴木管理主事、塩谷管理主事

### 4 **議題**

- ・会長・副会長の選出
- ・学校統合計画の概要及び今後の進め方等の説明
- ・質疑応答、意見交換

### 5 **資料**

（当日配布）

- ・入船地区学校統合計画について
- ・入船地区学校統合の今後の進め方について
- ・入船地区学校統合に関する検討課題

### 6 **会議経過**

・学校統合計画の概要及び今後の進め方等の説明については、以下の内容を事務局から報告を行った。

- （1）浦安市の学校の適正配置についての経緯
- （2）学校統合の概要及び今後の進め方
- （3）学校統合構想の例

・質疑応答、意見交換では以下のような質問及び意見があった。

アドバイザー：浦安市では初めてだという話だが、子どもたちにとって教育的な条件が少しでもよくなるように、行政も学校の関係者も保護者、地域の方たちも、一緒に考えていくことがいいと私は考えている。私たち大人が、子どもたちにとってどうするのがよいかを考えるのが基本である。

子どもたちのために新しい学校をつくるのであれば、行政と学校の関係者や保護者や地域の人と一緒にあって、魅力ある学校をどうしたらよいかという議論を、時間をかけて行ったほうが良い。保護者・地域の立場からすると、校長先生や先生方が、あの学校へ行って頑張ろうと

というような魅力ある学校をつかって、ぜひ先生方には力いっぱい働いてもらいたいと考えている。そうすれば子どもは安心して勉強や生活に励めるのではないかと思う。

委員：基本的に入船北小学校の保護者は全員が統合には反対だ。市教委から入船北小学校に対して何の説明もないというのは、保護者にとっても子どもにとっても大きな問題である。ペーパーが過去に2枚配られただけでまったく説明がない。何回か問い合わせはしたが、まだ詳しいことは決まっていない、決まったらお知らせすると言っただけで、入船北小にどうしてか説明がない。それも保護者にとっては大きなわだかまりというか、反対の一つの原因となっていると思う。

今後のことが何一つ決まっていない。跡地はどうなるのだろうかとか、入船地区はどうなるのか、幼稚園もなくなって小学校もなくなったら入船地区はいったいどういう風な治安になってしまうのか、全く決まっていない段階で3年後に統合するとそれだけが決まっている。ポンと上から押し付けられても、当事者である私たちも子どもたちもまったく納得ができない。そのような中で統合できるわけではないと保護者全員が今考えている。

統合が決して悪いわけではないと私も思っている。6年生以外は全学年1クラスなので、クラス替えもなく同じメンバーで6年間過ごしていくよりは、4クラス5クラスあった中で子どもたちが過ごしていくというのは、子どもにとっても良い環境であると思うが、でもそうなる前の対応があまりにも杜撰すぎて、安心して子どもを預けることができない。

もっとオープンに保護者の意見も聞いてほしいし、問題が起こったら言ってほしいと入船北小の保護者も思っている。できれば教育委員長にも市長にも見ていただきたいと思っている。私の意見は以上だが、連携と一貫の違いを説明してほしい。

事務局：小学校6年間と中学校3年間をくっつけて、1年生から9年生までを1つの学校として教育していくというのが一貫校という意味である。別々の学校であっても、小学校・中学校の中でのいろんなことを協議していき、こういう内容を小学校から中学校に向かって9年間通して育てていこうというようなことを協議する中で進めていくことも、一貫という言い方をしている。私どもが考えているこの統合については、一貫校ではなくて6年間と3年間に小中で分けて、それぞれのよさは生かすけれども、いいところは連携を図って効果的な連携にしたいと考えている。

委員：今日のプレゼンテーションの資料はすごく良かったと思うし、アドバイザーの話を聞くとなるほどと思うし、必ずしも反対ではないが、今入船北小のPTAについてはその辺の説明が全くない状態である。とにかく不安がいっぱいあって、説明をとにかくほしい。

今日のこの資料を見せたら、今大半が反対ということだが、ある程度の人は検討の余地はあると感じるのではないか。だから早く説明会をやっていただきたい。

事務局：説明会について、この場で意見を伺って円滑に進めたいと思っている。入船北小だけではなく3校の関係の方々も含めて一緒に説明したほうが、皆さんでいいアイデアを出していただけるのではと思っている。

委員：ある程度決まってからの話ではなくて、統合するということを、まず入船北小の保護者にぶつけてもらわないと、統合ありでの説明会はいけないと思う。

委員：入船北小の保護者の方たちに、納得してもらおうような説明というのではなくて、まずこういう段階でこう進めるということを説明しない限り、絶対に保護者の方々は納得されないと思う。すべてに対して答えを用意しようではなく、「検討する」でいいと思う。たとえば跡地をどうするのか、先ほども跡地利用に対して説明があったが、説明にはなっていない。役所の対応とい

われてしまえばそれでおしまいが、もっと腹割って説明をされたら納得していただけるのではないかと思う。3年後の統合というのは動かせるのか、それを検討されるべきかと思う。

事務局：説明会についてはこれからやっていかなければいけないと考えているが、今日伺った意見を含めて進めたいと考えている。

委員：7月なり8月の頭でもいい、とりあえず説明してもらわないと、2学期早々という、次の学年が入ってこないというのが現状だ。まとめてから説明するでは困る。

事務局：就学時検診は11月に行われる。その前にこちらから9月末までには案内を送るので、その前には説明会を行わなければならないと思っている。

委員：ペーパーだけでは、説明不足かなと思う。

委員：いかに魅力ある学校をつくっていくかという前向きな意見を交換するのがこの場だと思う。その話の前段階として、まず絶対反対という意見が出されたら、それをクリアするためには説明会をいつしたらいいとかいうのは、またみんなで意見を出して、こういうのが一番いいのではないかという話し合いをするべきだ。その前に3年後の統合を変えられるのかということがまず大前提ではないかと思うが。決まっていることならばそこに向かって、ここにいるみんなで頑張っていくなくてはならない。もし先延ばしができないのであれば、3年後の統合に向けてどうしたらいいかということ、みんながもっと建設的な意見を出していったらいいと思う。

たとえば入船北小が納得するためには、どういうことがあったらいいのかということ、話し合っていたらいいのではないか。「反対だ!」「いやそれはっ!」と言っててもしょうがない。

事務局：計画について、それを考えるかどうかということについては、今後の議論の中で決めていくことと思う。

委員：現在、入船南小学校の校舎はギリギリで、実際に6クラスが入ってくる余裕はないが、それに対しての案はどういうふうに考えているのか。

事務局：計画では、26年度の4月に仮称第9中学校ができる関係で、入船中学校の校舎に余裕ができるので、それを待っての統合ということを考えている。それも大きな魅力づくりの1つになると思う。

委員：小学校の5・6年生が中学校の校舎を利用するということか。

事務局：それはこれからの検討課題である。教室をどういうふうに使っていくかということはこれから検討していく。

委員：6年生のリーダーシップを育てるためにも、6年生が現在1年生を見てくれているが、そういう縦の関係というのは入船南小学校の魅力の1つであり、あえて分けてしまうと逆に魅力ある学校にならないと思うので、中学校の教室利用は私は反対である。プレハブはもちろんいやだ。今現在入船北小は校舎を使っているのに、呼ぶ学校としてプレハブで呼ぶというのは論外かなと思っているので、やっぱりちゃんとした校舎づくりというのも基本にあってほしい。現在震災で非常階段もボロボロである、1年たって直ったのはプールだけという状況だ。普通の廊下ですらガタガタで、けがをしている子どももたくさんいる。そういう原状復帰もできない学校に、呼ぶことはできないので、必ず原状復帰はもちろんのこと、プラスとして施設をきちんと作った上でないと魅力ある学校づくりはできないのではないかと思う。

迎える側としてもうちちょっと十分な設備がほしい、それは24年度に考えておかないと、校舎はつくるのに時間がかかるので、24年度に早めに意見交換をして意見として入れていただけるようなシステムをつくってほしい。こういうふうになりたいという要望が、地域の方にもあるので、その要望を踏まえた上で校舎づくりを考えてほしい。

委員：学校を預かる立場としては、学校は3学級くらいあったほうがいい教育効果が出ると思っている。基本的にそのくらいある学校がいい。今回がモデルケースということになると思う。10年後、20年後の浦安の子どものためには市の施策としてやっていくことはとても大事だと思う。

これから進めるには跡地利用も含めて、そういうものを手続した上でこれからも進めてもらいたい。統合のことをまず考えて、入船中の施設を少なくなったから活用するというのは別問題として考えていかないとうまくいかないのではないかなと思う。時期についても柔軟に対応していただけたほうが入船北小の保護者にとっては納得できるのではないかなと思う。

委員：入船北小の統合が形となって決まってから、中学校との連携は考えてほしい。

委員：美浜北幼稚園へ行っているお子さんや入船南幼稚園へ行っているお子さんの保護者の方にも、必ず説明会を開いていただいて、統合がありますとしっかり説明していただいて、ご理解いただいたうえで小学校を選択していただけるようにしていただきたい。

入船北小と入船南小が合併することによって、入船南小というものがなくなるということになる。入船南小を卒業していった方たち先輩の方たちが、やっぱり入船南小はなくなっちゃったんだということになる。そういう部分を含めて、保護者だけでなく地域住民の方にもしっかり説明をしていただきたい。とにかく早く説明会を、保護者向けにはもちろんのこと、地域住民の方にも一刻も早く説明会を開いていただきたい。

委員：明海や日の出も、もし今後の展開として考えていることがあるのであれば、将来の展望みたいなものも含めて、人口の推移、子どもの数の推移も含めてこういうことが考えられるということ、浦安市全体でこう考えていますということ、将来ビジョンがはっきりすると受け入れられやすいかなと思う。

委員：連携・一貫ということをはっきりしたほうがいい。まだ、一貫というイメージが残ってて入船学園的なものができるというような話もあるので、そのあたりをどうするのか、連携と話を聞いているが、はっきりと連携で行くということを知られたほうがいい。

また、入船中学校をどうしていくのかということを考えていかないと、小学校だけの話では済まない。生徒の数が減った入船中学校をどうするかとか、中学校は中学校なりの対応をしていかなければならないし、中学校を含めた話をしなければいけない。

実際に保護者にとって魅力ある学校とはどんな学校か、どんな学校だったら通わせたいのか、どうしたら子どもを、多少問題があっても学校へ通わせたいという忌憚のない意見を、皆さんのほうから、どんな学校が魅力ある学校なのかを出していただけると、今後の学校経営にも関わっていく問題だと思うので、ぜひお話しいただければありがたい。

委員：一緒に何かを進めていくに当たってだが、説明会を学校ごとにやると入船北小は入船北小の意見になってしまう。これからは一緒にやっていくのであれば、子ども同士も交流がないと余計な心配が出てくると思うので、合同で何かすることをこれからたくさん作っていくべきだ。運動会の際にお互い交流する、合併するのであれば同じことを一緒に作り上げていくという過程が、人との交流もいろんなこともわかってくるので、ぜひいろんな合同のプロジェクトを立ち上げたい。

委員：反対反対と文句ばかり書き連ねてしまったが、統合するに当たりスムーズに行くには子どもたちも保護者もあるので、入船北小と入船南小で合同PTAのチームを作るというのも1つの案だと思う。

また、入船北小というのは学校がなくなってしまうというストレスがあるので、まずは各校で説明会をしていただきたい。そのあと、納得するというかある程度道順ができた時点で、合

同説明会というのもいいと思う。

少しずつPTA同士が何かをしていくとか、市の方も交えてフォローしていただけたらありがたい。魅力ある学校づくりは、中学校の先生が小学生を教えるというのはいいと思う。

しかし、うちの息子はお友達のいる美浜北小学校に行くと言っているし、ほかの皆さんも美浜北小学校に行くというのが大半である。それを覆すだけの楽しい学校づくりを具体的にもっと提示してほしい。そして小学校間の連携を市の方ももっとサポートしてほしい。

委員：浦安市では明海の小中学校の連携があるので、その長所短所を洗い出して具体的に示していただけると、さらに検討しやすいと思う。

アドバイザー：まずやらなければならないのは学校の適正配置という大前提がある。これはまさに総論としてある。これについて13年から20年に検討している。すると当然のことながら総論に基づいて各論の検討になる。みなさんにとって総論の時はあまり自分の問題にならないが、各論になったとたんに自分の問題になる。自分の問題になったとたん、話がどんどん先走ってしまう。3年後をもっと延ばせないかというお話もあったが、むしろ早くしたほうがいいというのが自分の考えである。話が先に出ると、みなさん行動を先走ってしまっていて残された学校はどんどん減っていくということが逆に見えてきて、私はやり始める話題になったら早くやったほうがいいと、いろんな事例を見てそう思う。と同時に、今の教育のいろんな問題、統合もそうだが、プラスとマイナスと必ず両方ある。小規模校のメリットも当然ある。適正規模の良さもある。いつか変化をしなければいけない何年間があるので、そこである学年の子どもと前の学年とで個別利害が違ってくる。

トータルで6年間あるいは9年間でうちの子にとって、あるいはうちの近所の子にとって、どういう条件をどういうスピードでどういう風に整備したらよいかということ、トータルで考えていきたい。必ずしも子どもというのは客観的な条件だけでマイナスになるとは限らないので、先生方と一緒に力を合わせていくと、かえってそこからいろんなことを学んでいくというケースがある。

6年生がリーダーにせっかくなるチャンスがあったのになれないというデメリットもあるが、1年早く中学校的な生活や勉強ができる、教科担任制が入ってくる、部活も早く参加できるというかたちで逆にメリットもたくさん出てくるので、さっき言ったようにメリットデメリット両方ある。私が聞いている限りにおいては、早くから中学校の校舎に行ったメリットとしては、むしろ早く中学校の生活や勉強ができる、5年生から5年間部活ができる、5年生から教科担任制になってこれもメリットデメリットあるが、これも事例として聞いているのを見ると、国語や算数数学ということだけじゃなくて、音楽とか体育とかやや技能的な教科のほうが、例えば小学校の先生が体育を教えるよりは中学校の体育の先生が体育を教えるほうが、かなり専門的な指導力というものがあるのでずいぶん違ってくる。成果が上がっているという声のほうが私が聞いている限りでは多い。

委員：5・6年生が例えば中学校の校舎に行ったら、6年生と1年生の関係が希薄になってしまうのではないという心配はちょっとある。6年生と1年生だからこそ、兄弟学級があって入船南小の良さが出ているのではないかって思うので、そういう魅力を壊さずにどう学力を上げていくかというのを考えていただきたい。

アドバイザー：子どもはかなり環境に適応する力を持っている。今のように、こちらの学校では6年生が1年生の面倒を見るシステムになっているから6年生がちゃんとやっている。もし6年生が向こうへ行くと5年生がやる。いろんなケースを聞いていると子どもってすごいなあと思う。

環境の変化に大人は心配しがちだが、子どもはものすごくたくましい。

委員：確かに4年生が1年生の面倒を見るかもしれない、じゃあ取り残された今の5・6年生の気持ちはどう考えるのか。

アドバイザー：先ほど申し上げた通り、移行するときに一定の学年はそういうケースになりがちだが、

委員：そしたらはずれの学年ではないか。

アドバイザー：いや、それが何年後かってわかっているわけであるから、当然そういうことが経験できないまま過ごすのではなくて、たぶん学校側は完璧ではないかもしれないけど、5・6年生に対してリーダー的な体験をさせるための工夫は、移行期において学校はそういう経験は必要だっていうことはわかっているから、何かなさると思うしなさっている。

委員：話を早急に進めるのではなく、そういう子どもたちの気持ちも踏まえながら統合を進めるべきだ。早急にするのではなくて、もっと言うなら5年後6年後でもいいのではないかと思う。

アドバイザー：子どもたちの1年2年はものすごく大事だから、3年後でもかなり長いと思う。話が出た段階で、できるだけ早くスピードアップして今日のような話し合いも含めて、丁寧にとすることが大事で、中身を濃くして皆さんと意見交換をしてしっかりと説明をし、北と南が結婚するなら、結婚した後どうするかにエネルギーを注いだほうが私はいいと思う。

委員：こんなことが意見として出されますよということを事前にお調べになったうえで説明会をなさったほうがいいのではないかって思う。

委員：今までに統合されて5・6年生と分かれた時に、どういう形で小学校の大会などを行っていたのか。

アドバイザー：小学校は小学校、中学校は中学校でやっているのだから、あくまでも5・6年生は大会が近付いたりすると一緒にはならない。1日も早く中学生のレベルの高いものを聞近に見られて、そういう成果というものは聞いている。

委員：入船南小学校のミニバスケットボール部は全国大会に出場するくらいの頑張っているチームなのだが、分かれるというのは負担があるかなって思うが。

アドバイザー：最初からではなく、週一くらいは中学生たちと、あとは小学校でやるという形がほとんどだ。基本は、小学校は小学校、中学校は中学校である。

私の役割は、皆さん方よりはこういうケースをいろいろ知っているし、3月まで教育委員をしていた地域でも小学校2つを統合した。一番もめたのは創立記念日をいつにするか、その年が創立年になってしまう。卒業生はそういうところにこだわる。校名も校旗も校歌もどうでもいい、創立年だけは明治〇年にしてほしいというような話があって、学校の統合は難しいと思った。委員からの意見は、教育委員会が今まで以上に保護者地域の人たちの不安や疑問に対して丁寧にしっかりと答えていく、それは行政の責任だろうと思う。

子どもたちの交流も何年も前からやったりして、まずは子どもたちが仲良くないといっしょにはできない。説明もできるだけ早く丁寧にやらせていただいて、かつ学校側からも今日のような意見を出していただいたほうが議論もしやすいし、お考えもわかると思うので、懇談会もそういう形でやられたらと思う。

基本的に全国を見ていて最後はやはり地域のことはその地域で決めるということである。しかもいろんなケースがある。メリットもデメリットも両方あるから、デメリットばかりあるものは最初から行政当局も提案しない。メリットばかりのものはとっくにやっている。難しいのは両方あってそれをどういう風に、メリットをもっと増やしてデメリットをできるだけ小さく

し、最終的に親御さんが子どもを安心して通わせ、子どもたちが自分の学校に誇りを持っていてというなかたち、伝統を受け継いだいい学校にしていくかたちで、かかわる私たちはそれをやっていくしかないと思う。

賛否両論、違う意見も生かされて子どもたちのための学校づくりが入船地区でできれば、ほかのところの参考にもなるだろうし、全力を挙げて知恵を絞って懇談会なり話し合いができればいいかなと思う。